

奈良県におけるリユースびんを 用いた大和茶飲料普及促進事業

World Seed: 副代表理事 中島 光

我が国の現状

- ◇第4次環境基本計画が閣議決定(平成24年4月)
- ◇第3次循環型社会形成基本計画が閣議決定
(平成25年5月)
- ◇本年度より容器包装リサイクル法の改正審議が開始
- ⇒第3次循環型社会形成基本計画には、2Rの推進とともにリユースびんの普及が明記される。
- ⇒びんリユースを促進する上で非常に状況が整っている

概要

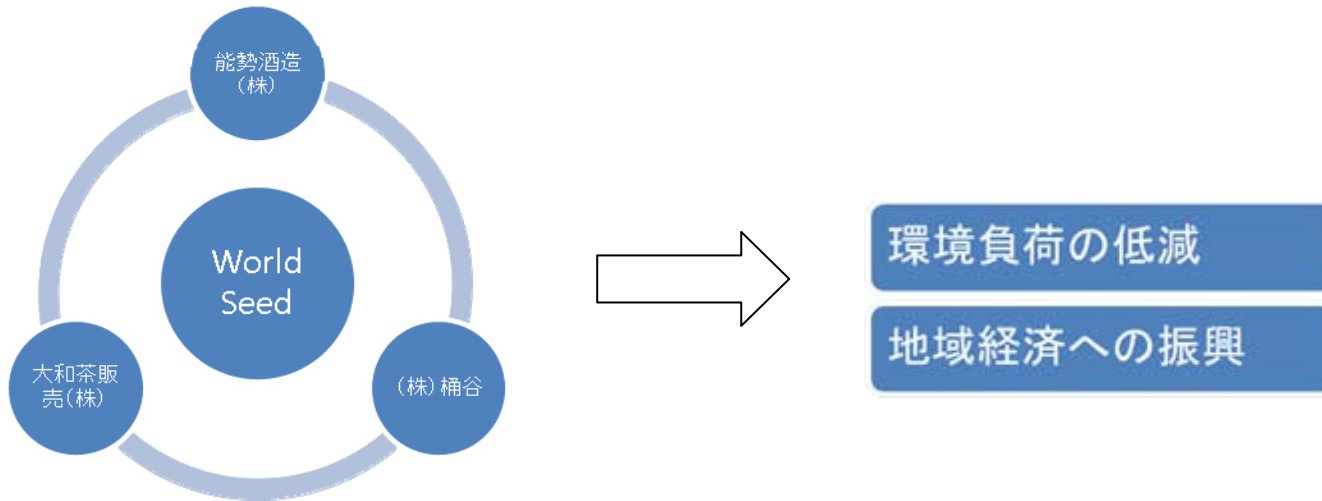
- ・奈良県特産の大和茶を使用した
〈リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』〉
を開発。
⇒「平成24年度 環境省 びんリユースシステム構築に向けた
実証事業」を受託
- ・主に奈良県内を中心とした「公共施設」・「ホテル・旅館」・「飲食店」へ普及。

商品概要

- 商品名：リユースびん入り
大和茶『と、わ(To WA)』
- びん：Rドロップス2号 220ml
- 原材料名：緑茶(奈良県産大和茶)
ビタミンC
- 賞味期限：製造後9か月
- 保存方法：直射日光を避け、
常温保存



本事業の目的



地域循環圏を軸とした「地球環境負荷の低減」・「地域経済の振興」を発信し、持続可能な地産地消ビジネスモデルを構築する。

本商品の概要

■商品コンセプト

奈良から発信する「環境」と「地域」を結ぶ奈良ブランド商品の確立。

『と、わ(To WA)』はリユースびんの環境的意義、奈良県特産品を使用による地位的意義の融合を確立させ、それを広く社会へ発信する。

地域企業による商品の開発及び普及を通したびんリユースの構築による地域経済の振興に寄与する。

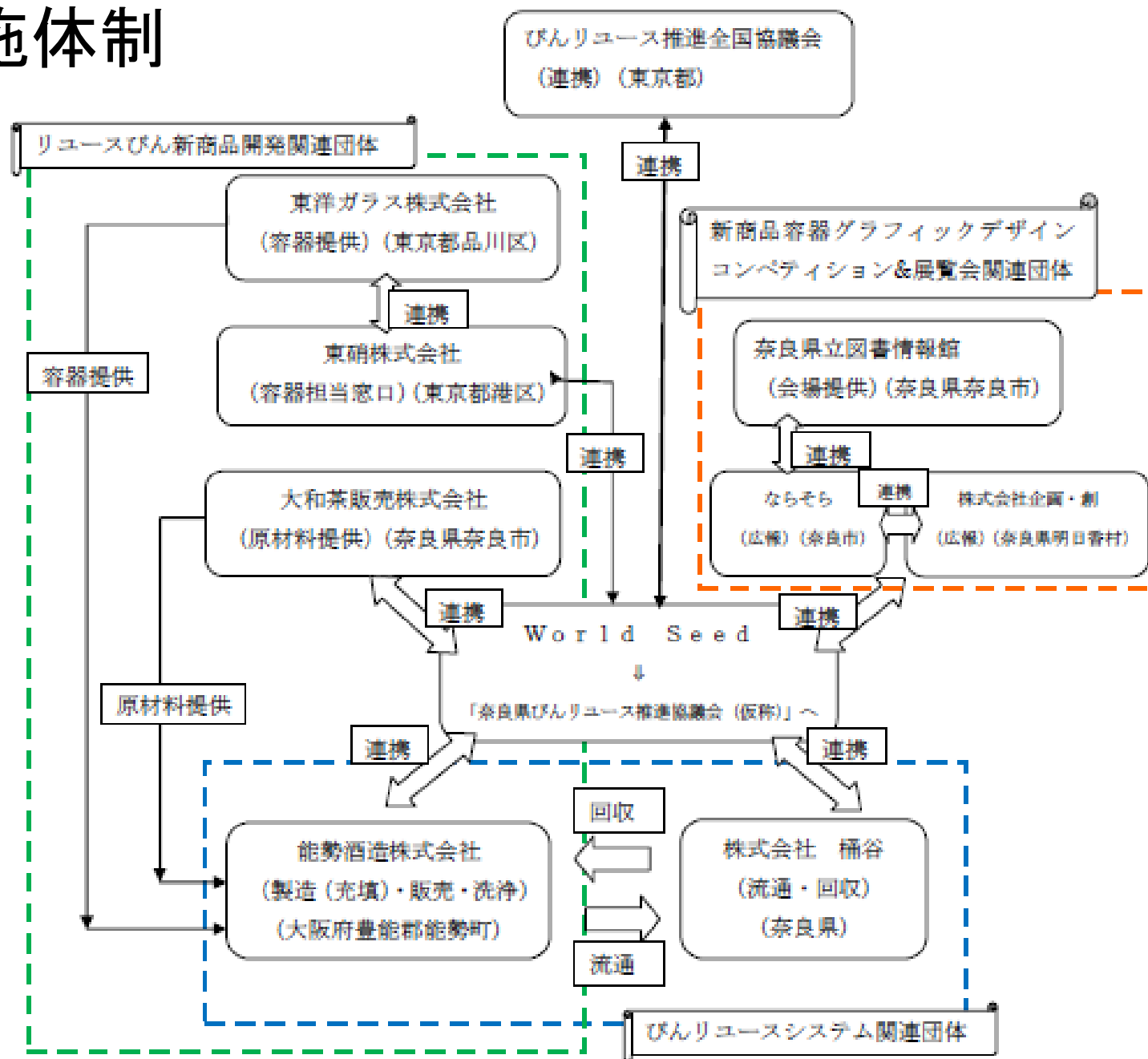
■ブランドコンセプト(ブランドプロポジション)

「ひと」と「ひと」を繋ぐ。めぐり、めぐる社会の実現。

●みんなでつくる「わ」

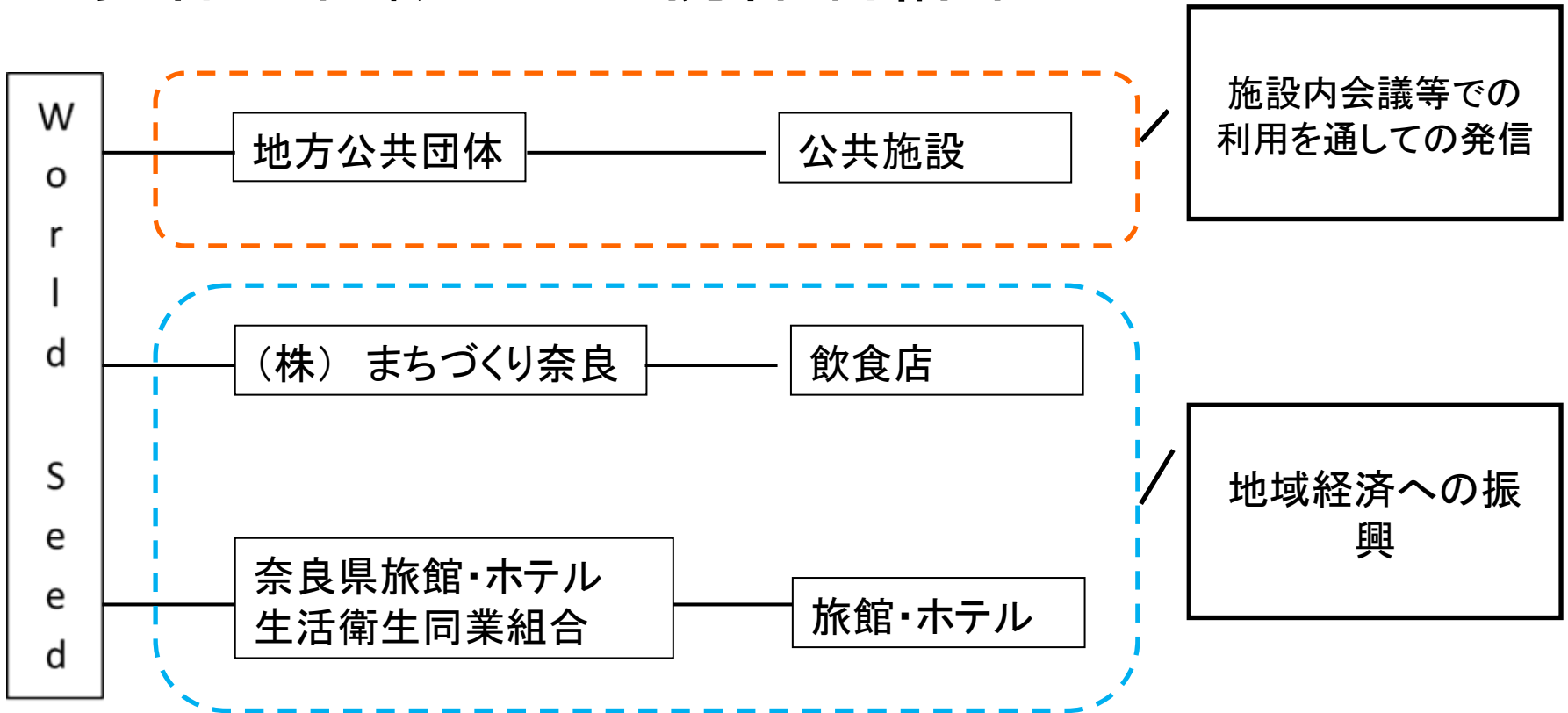
「和」を以て「輪」を成す大和茶と「環」を以て「輪」を成すリユースびんの融合。多くのひとびとに、悠久の歴史から受けつがれてきた文化を伝え、環境と地域を繋ぐ新しい社会の実現を目指します。

実施体制

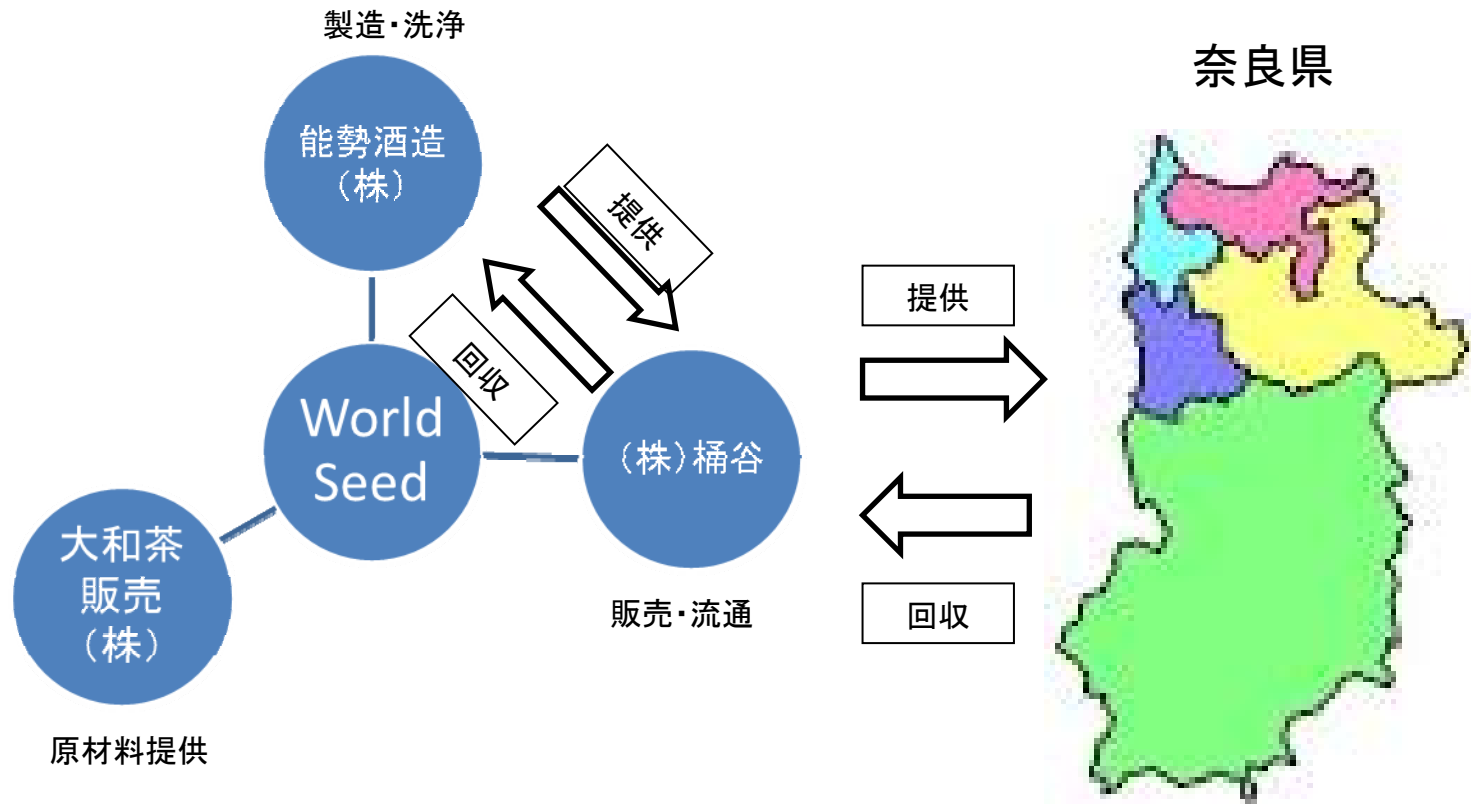


普及アプローチ

- 多様な組織との連携体制構築



びんリユースシステム



実施風景



実施風景



実施風景



実施風景



実施風景

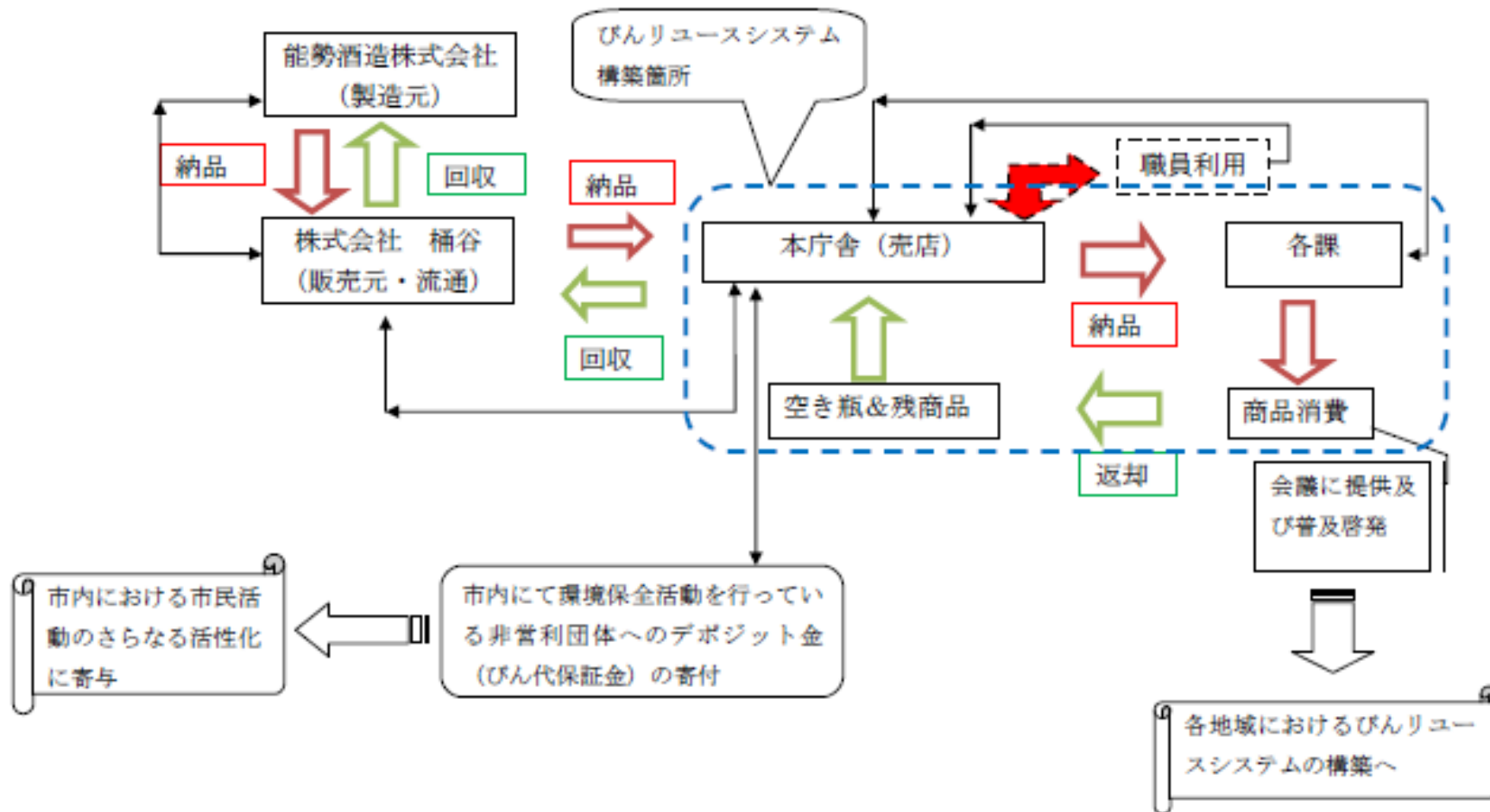


実施風景



公共施設におけるびんリユースオペレーション

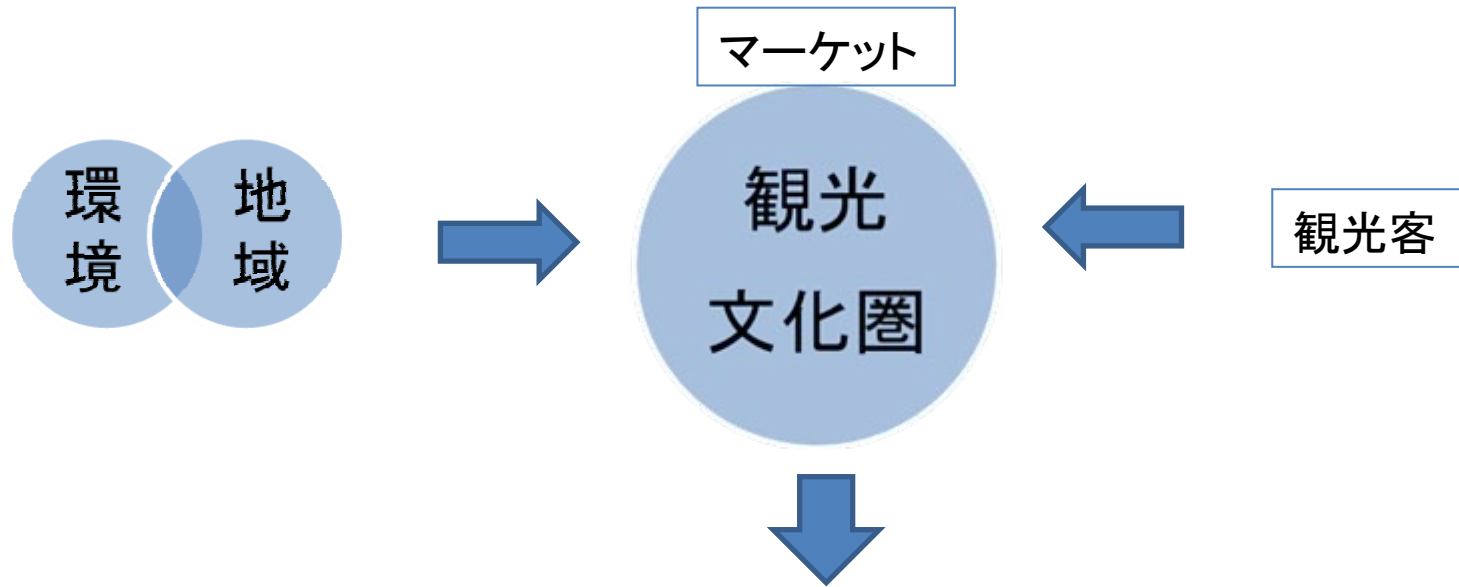
◆公共施設びんリユースシステム



本商品の戦略

- ターゲットマーケット
⇒ 奈良県を中心とする近畿圏
- 奈良県の経済システム
⇒ 奈良県の「資産」は「観光」を基軸とする文化圏の共有
- 本商品の「環境」&「地域」を奈良県の経済システムに組み込む。
- 単に「モノ」ではなく、サービスを含んだ「コト」としての表現。

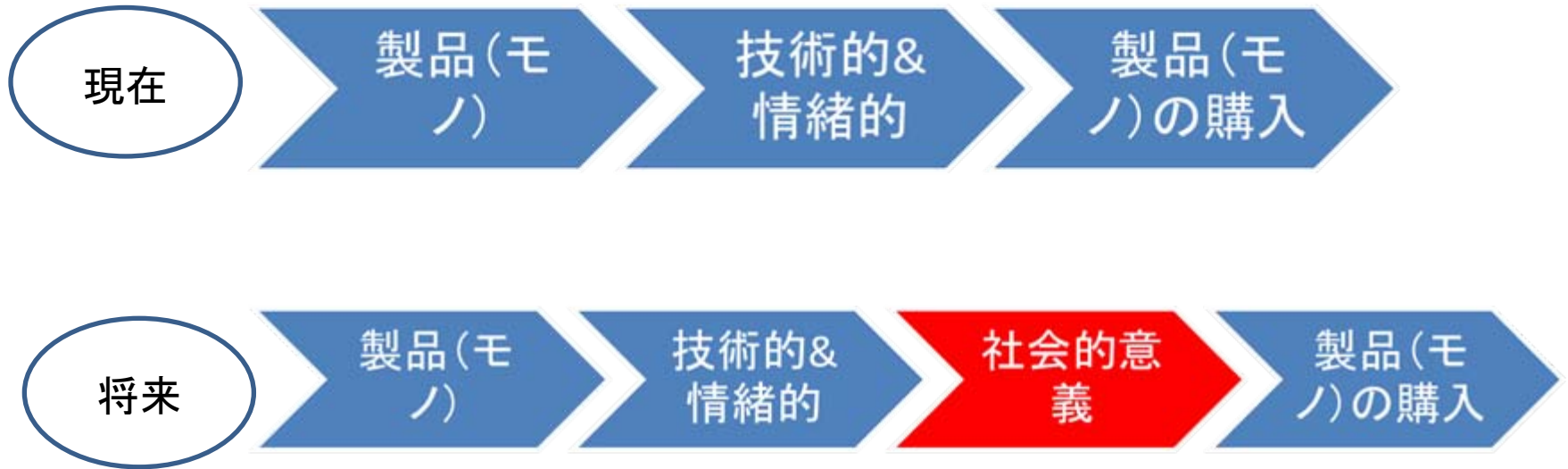
本商品の概要(図式)



奈良県における経済システムに本商品の要素を組み込む
→ 単位「モノ」ではなく、サービスを含んだ「コト」の提供

我が国における動向

- 消費者動向



将来を担う世代に対して、「消費者が潜在的に求める」ニーズを捉え、広い視をもって消費者へ製品を提供することが求められている

ネットワーク(社会基盤)の構築

- 持続可能な社会形成には他分野かつ多様な団体とのネットワーク(社会基盤)構築が必要である。



びんリユースを普及させる上で

- 対象地域経済システムに組み込む必要性

⇒ 地域には当該地域の文化・風土が存在し、一概ではない。

当該地域の収益事業な何なのか？

課題は何なのか？

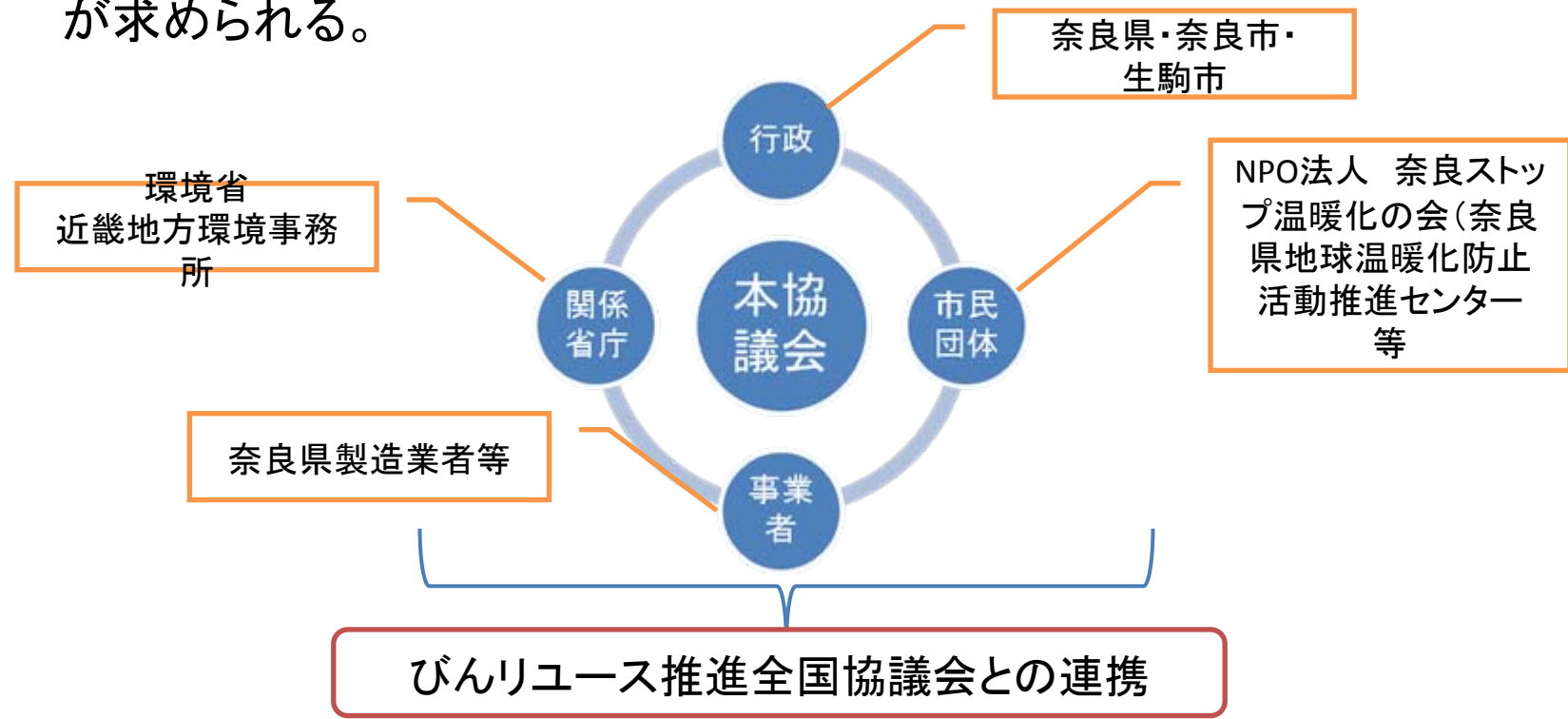
地域住民が求めているものは何なのか？

我々は何ができるのか？

- 地域で活動する諸団体との連携構築が必要
⇒ 環境団体だけではなく、行政をはじめ、経済界等、多様な連携の構築

奈良県におけるびんリユース 推進協議会（仮称）の設立

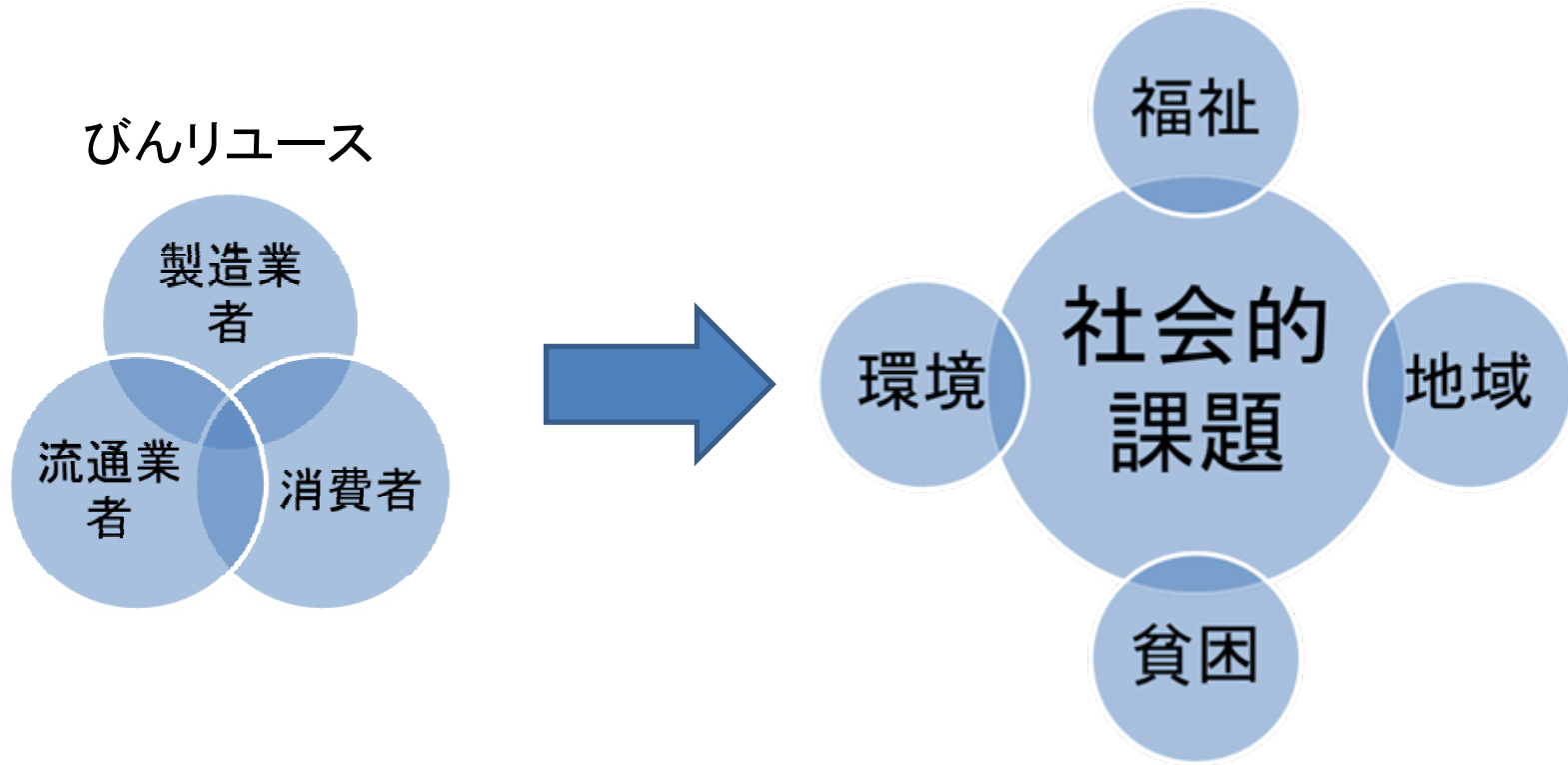
- 本事業を当該地域にびんリユースの重要性を広く発信するとともに、参画団体との認識・共有を深めるために設立する。
- 公共施設での本商品普及を中心に、その推進体制を強化するねらい。
- 本協議会設立にあたって、本事業が奈良県のまちづくりに貢献することが求められる。



本商品のコーズマーケティング

- 代表例はヴォルヴィックの「1L for 10L」
 - 奈良県における地域課題へ本商品が直接的に貢献できる仕組み作り。
 - 消費者が「目に見える形」で社会に貢献できる参加システムの構築
- ⇒びんリユースは「製造業者」・「流通業者」・「消費者」がひとつになるため、非常に有効

タッチポイントの拡大へ



びんリユースが社会的課題解決に有効であり、リユースびん商品の購入・空き瓶の返却によって消費者自身が「社会貢献に参加している」という認識を持たせることが重要

【消費の概念を変える】

ご清聴ありがとうございました。

World Seed: 副代表理事 中島 光

奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料普及促進事業